

横浜緑ヶ丘高等学校 令和7年度終業式

令和8年3月25日

校長 坂元 久美子

三寒四温、一昨日は開花が数えられるほどだった正門脇の桜が、昨日一気に咲き始めました。が、今日はまた低めの気温です。それでも確実に春になりつつあるのを感じます。

皆さん、今年も一年間、本当によく頑張りました。その結果、どのくらい花が咲いたのかは、一人ずつ違うと思います。上手に咲くことばかりではない、私もそうです。10咲きたいと思った中の、咲いたのは2か、3か。それでも、皆さんも、私も、情熱をもって何かに取り組んだことは、必ずプラスになっているはずです。思った通りの花の咲き方でなくても、本気で挑戦しなければ何も始まらなかったのですから。今年一年間、皆さんそれぞれが挑戦し頑張った。本当にありがとうございます。私は皆さんを誇らしく思います。

今年度は創立 100 周年式典があり、それとともに校内のいろいろなところが整備されました。この体育館はもちろん、夏には正門が新しくなりました。旧体育館跡には「憩いの庭」が造られ、現在は遊歩道を歩けるようになりました。その奥には、アスファルト敷のかなり広いスペースが数日前に完成しています。フェンスが低いのでボールは使えませんが、部活動のトレーニングやアップ等にぜひ活用してください。また、生徒会館（部室棟）は、100 周年の寄付募金による 30 年ぶりの改修で、安全で見違えるほどきれいに直していただきました。グラウンドも、周囲の樹木の整理・地面の整備で広く使いやすくなり、現在はテニスコートの改修が行われています。校舎内は各フロアのトイレに温水洗浄の設備を増やしていただきました。

事務室の方、県教育委員会の方、工事業者の方、保護者・卒業生の方、いろいろな方々の思い・善意で、この2年間に緑高のあちこちが整備されていることを、皆さんに知って使ってほしいと思います。

きれいになったグラウンドを、今、整備してくれているのは部活動の人たち、顧問等の先生方です。限られた時間に限られた人数で、現在の良い状態を保つのは非常

に難しいことがわかってきました。そのため、来年度は、グラウンド整備に軽車両を使う計画をしています。これを見かけたら、部活動のためだけでなく、全校生徒の授業のための整備をしてくれているのだな、という気持ちで見てもらえると嬉しいです。

皆さんの愛する緑高が、より居心地の良い場となるように多くの方が応援・協力してくださっています。皆さんのお気持ちに感謝し、大切に使ってください。

さて、私が皆さんにいつも話していること。自ら意思決定し挑戦できることが、真の自由である。自分の自由があるのは、他の人の自由、他の人の意思決定も尊重されるから。強いることも強いられることもない、自分も他者も同じように大切にされ、大切にできる学校生活を、皆さんに送ってほしいということです。

今日は、一年分成長した皆さんに、もう一段階進めた、私の希望を伝えたいと思います。校訓「三徳一誠」の意味、100年前から緑高でやってきたことにつながるのだと考えています。

人は社会の中で、他者とともに生きなければなりません。生きていく中で、自分が意思決定し、やろうとしていることがすんなり通らないことも当然あります。自分が「こうしたい」と思うことと、周りの人の「こうしたい」がぴったり同じということは、実は稀なことかもしれません。今は高校生で同年代の人との付き合いが多いけれど、将来社会に出ていけば、年代も育ってきた環境も様々な人たちと一緒に過ごすことになります。自分の経験を軸に、自分の価値観で判断したことが、異なる時間・経験を積み重ねてきた他の人の判断といつも同じであるわけではないのです。

賛成してもらえない、理解してもらえないと、困り悩みます。そんなとき、どうするのか。それが、グラウンドデザインにある「対話」です。

より良い「対話」をするために、皆さんに次の2つをやってほしいと考えています。

一つ目は、「知る」「自ら調べる」「もう一度考える」。これは、実は「探究」でも皆さんがやっていることです。

先日の探究成果発表会でもお話ししたように、自分の話を、情熱をもって取り組んだことを聞いてもらいたいと思ったら、相手が「なるほど」と思える、説得力のある、論理的な内容・伝え方が必要です。

そのためには、まず、よく「知る」「自ら調べる」。「自ら調べる」というのは、ネットで検索するだけではなく、関係文献にあたる、実験してデータをとる、アンケートをとる等も該当します。より分かることを増やすために、アクションを起こす。それが「自ら調べる」です。

それらをふまえた上で、「もう一度考える」。相手と違う考えになるのはどうしてなのかを、さらに論理的に伝えられるように考えることです。

二つ目は、相手の軸で眺め、または推測した上で、誠実に自分の思いを伝えること。そして、相手と共有できる最適解を見つける努力を続けることです。

例えば、「探究」で、誰かにお願いしてアンケートをとりたい。その時に回答してもらおうとする人たちがその設問をどう思うか、考えていますか。相手の軸で、一度考えてみてほしいのです。また、皆さんは、英語の授業でディベートをしたことがあるでしょう。ディベートも、自分の考えは一旦脇に置いて、指定された立場で考えてみるものです。相手の軸で考えてみる。自分の見方とは異なる考え方があるということも理解しようと努めた上で、自分の考えを相手にわかってもらえるように伝える。「対話」において大事なことです。

自分の意思も、相手の意思も、ともに大切にするための「対話」が目指すものは、「正解」ではなく、「最適解」です。対象となる状況・人にとって、より良い方策・案・答を見つける努力を続けてほしいと思います。

独りよがりでない、自分の意思の通し方を、緑高の自由の中で、たくさん経験してください。そして、社会における自分について、考え始めてくれると大変うれしいです。緑高生が社会から期待されているのは、次世代を担うリーダーです。

SSHとして、来年度はI期のまとめの年です。再来年度から進化したSSHとなるために、緑高の学び方も進化していく予定です。枠組みは来年度も今年と基本的には同じですが、行う内容・方法はもうすでに進化が始まっています。「探究」のテーマも、今年のうちにだいぶ考えていると思います。

「探究」を軸にした緑高での学びを、ぜひ皆さんの力で充実させてください。

以上で、私からの話を終わります。